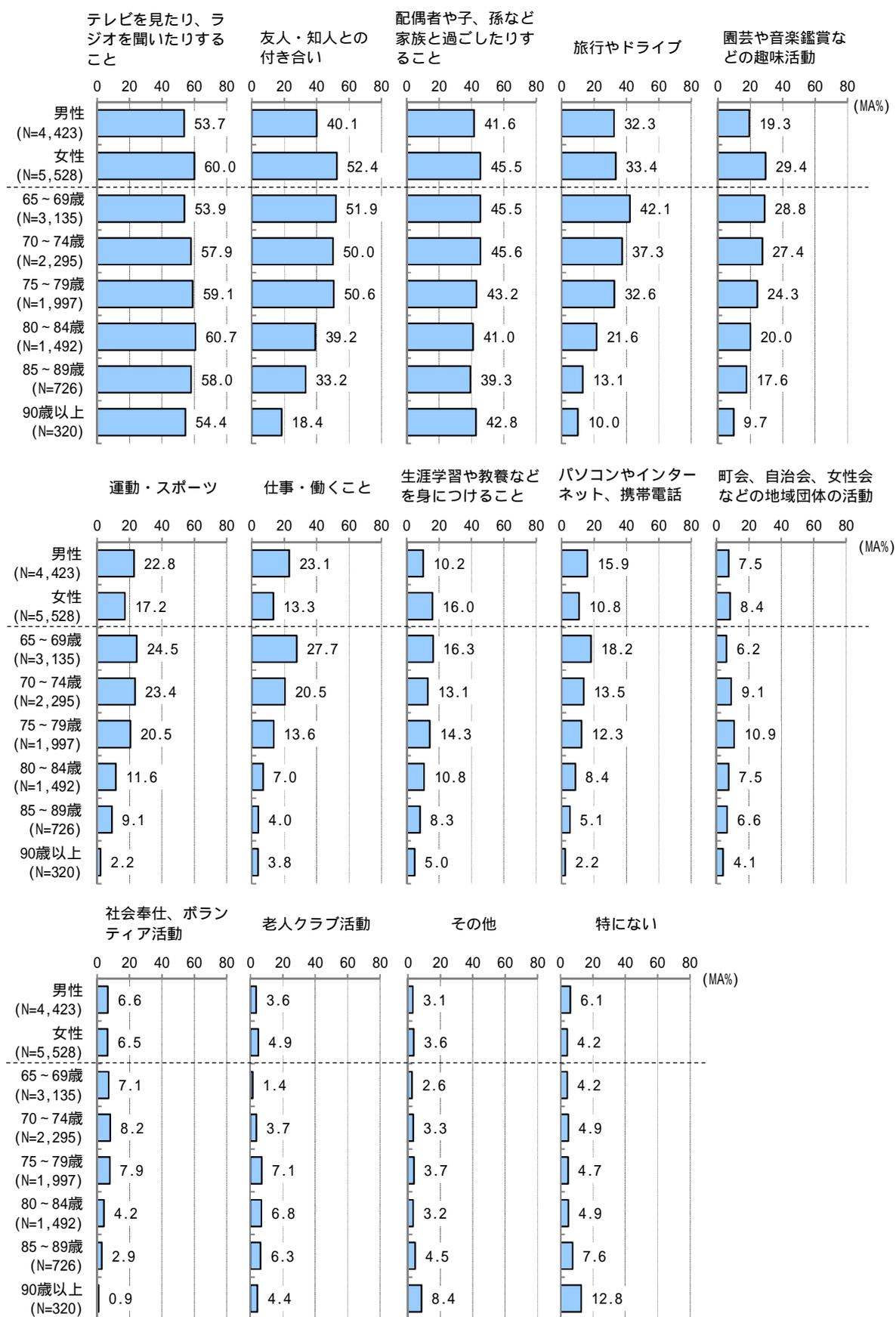


「仕事・働くこと」「パソコンやインターネット、携帯電話」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図24-a)

【図24-a 楽しみや生きがい(性別・年齢別)】

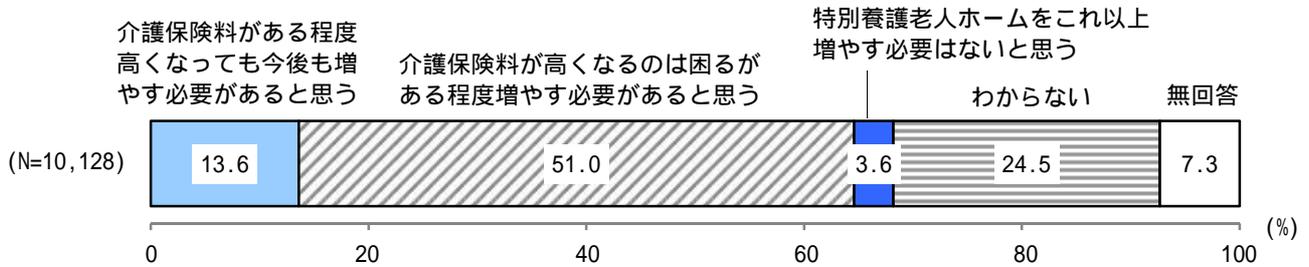


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問25 特別養護老人ホームの整備に対する考え

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の整備についておたずねします。
特別養護老人ホームの整備が進めば、介護保険料が高くなりますが、あなたは、今後の整備についてどう思われますか。（ はひとつ）

【図25 特別養護老人ホームの整備に対する考え】



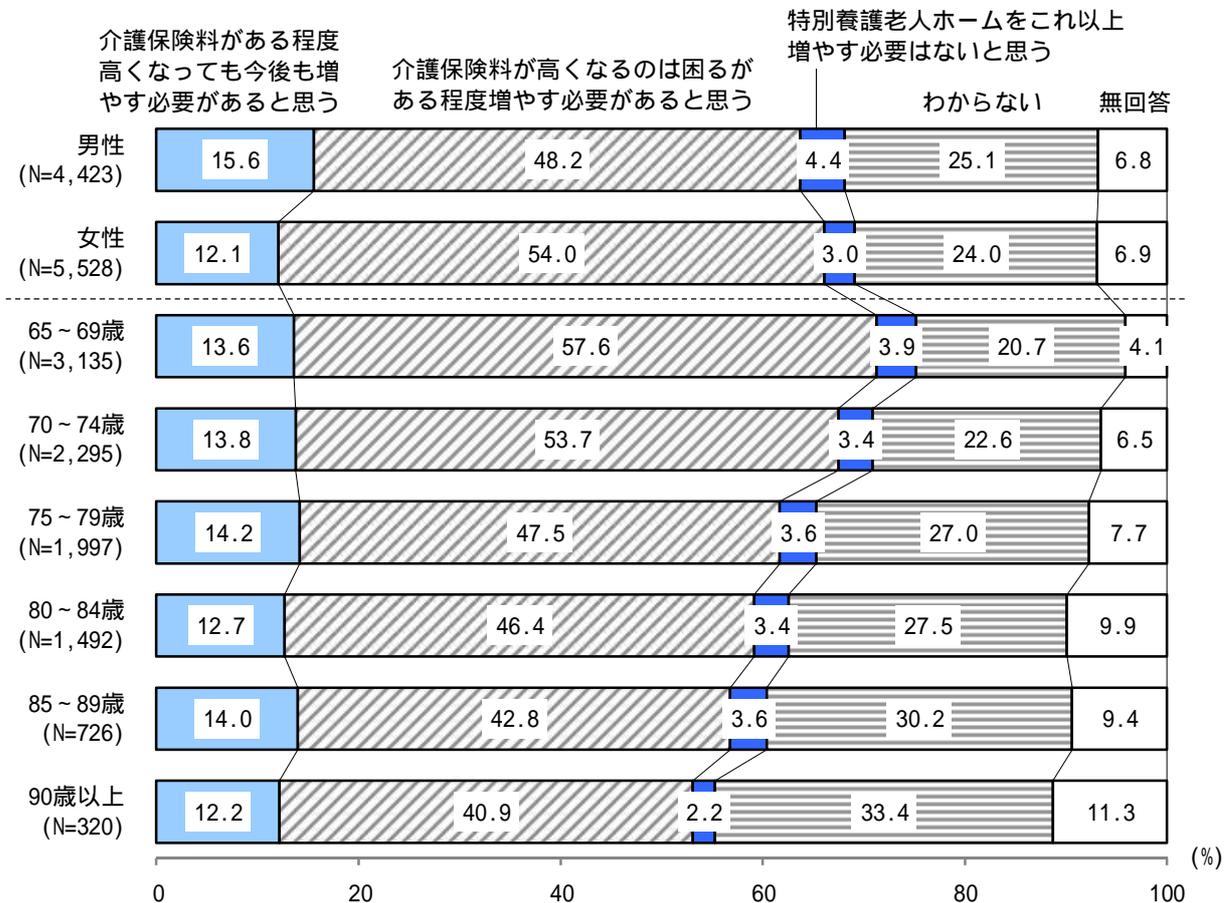
特別養護老人ホームの整備に対する考えについては、「介護保険料が高くなるのは困るがある程度増やす必要があると思う」が51.0%と最も多い。「介護保険料がある程度高くなっても今後も増やす必要があると思う」(13.6%)も含めると、『増設の必要性を感じている人』は64.6%となっている。(図25)

性別でみると、『増設の必要性を感じている人』は女性の方がやや高くなっている。

年齢別でみると、『増設の必要性を感じている人』は高齢になるほど割合が低くなっている。

(図25-a)

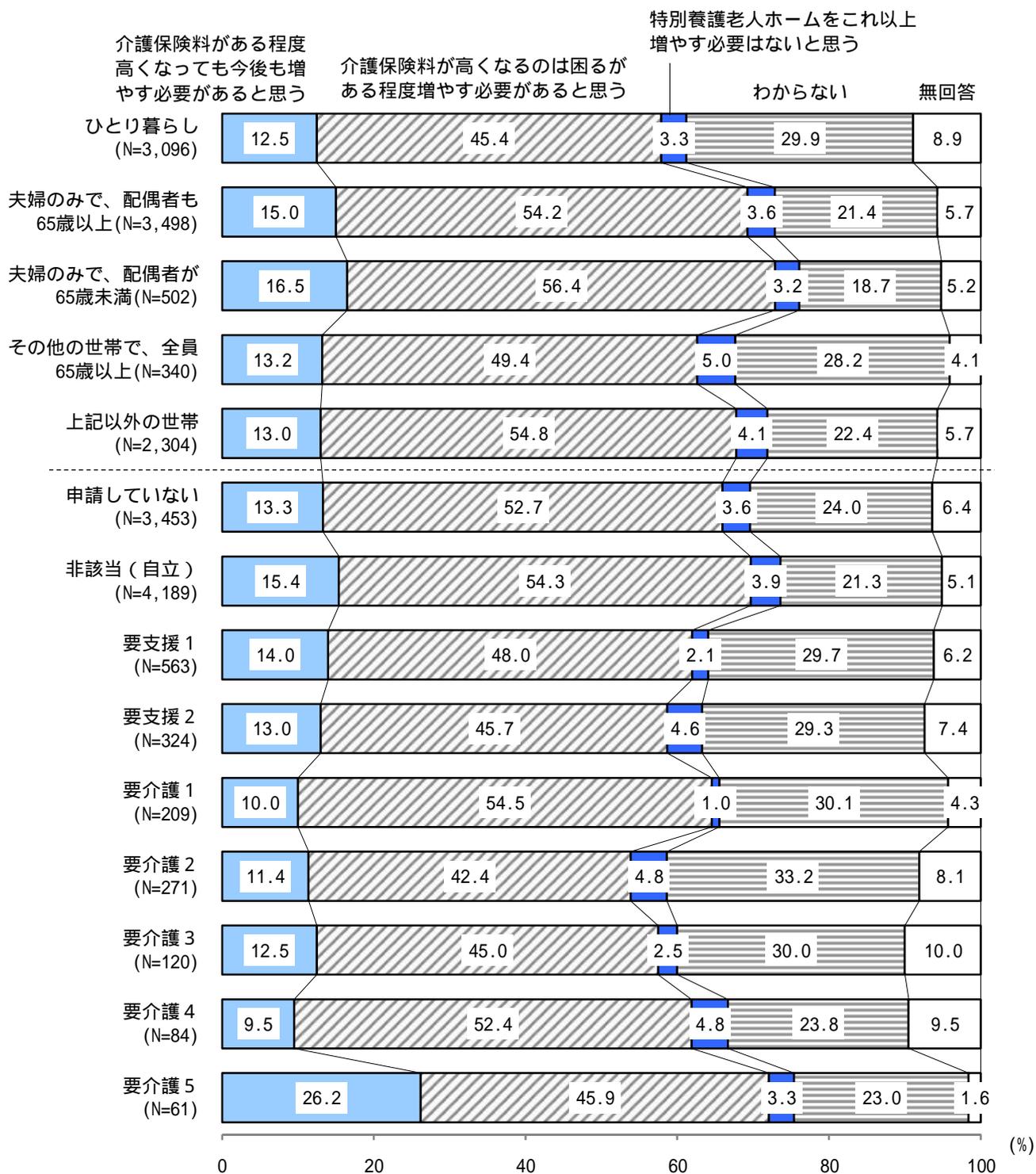
【図25-a 特別養護老人ホームの整備に対する考え（性別・年齢別）】



世帯状況別でみると、『必要性を感じている人』は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”で最も高く7割を超えている。

介護度別でみると、『必要性を感じている人』は要介護5が72.1%で最も高く、次いで非該当(自立)が69.7%で続いている。(図25-b)

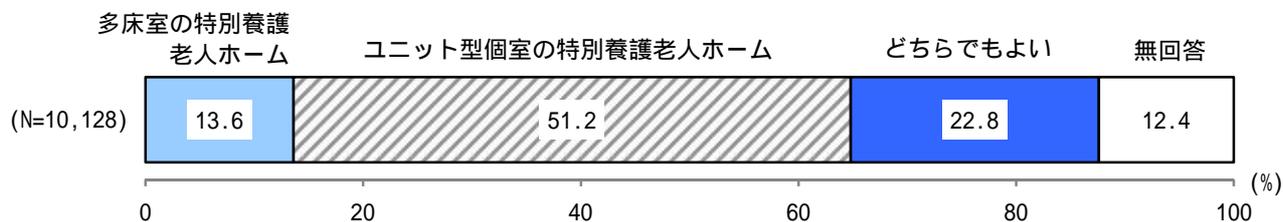
【図25-b 特別養護老人ホームの整備に対する考え(世帯状況別・介護度別)】



問26 特別養護老人ホームの入所に関する意向

あなたは、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）に入所することになった場合、どちらの施設に入りたいと思われますか。（ はひとつ）

【図26 特別養護老人ホームの入所に関する意向】

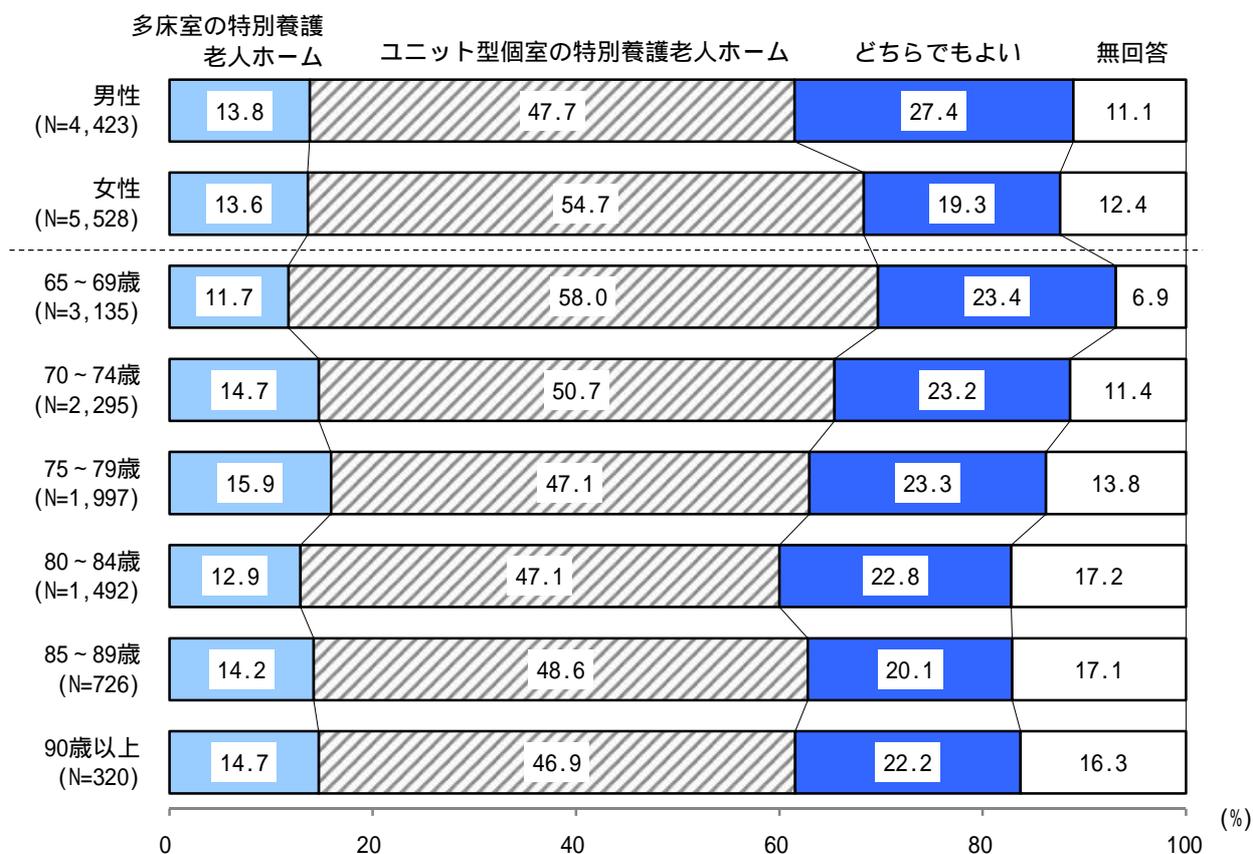


入所したい施設については、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」(51.2%)への入所を希望する方が5割を超えており、「多床室の特別養護老人ホーム」(13.6%)に比べて、大幅に多くなっている。(図26)

性別でみると、「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の回答割合は女性の方が高くなっている。

年齢別でみると、いずれの年齢区分とも「ユニット型個室の特別養護老人ホーム」の希望する割合が最も高く、高齢になるほど割合は低くなる傾向にある。(図26-a)

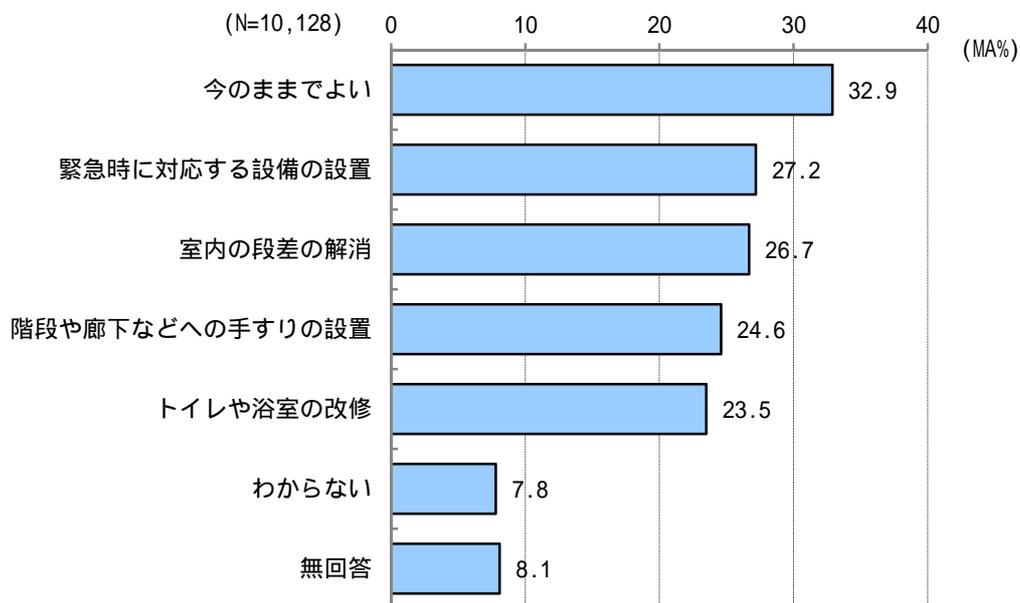
【図26-a 特別養護老人ホームの入所に関する意向（性別・年齢別）】



問27 住まいへの希望

あなたのお住まいの住宅で、安全・安心に暮らすために、どのような対応がなされればよいと思いますか。(はいくつでも)

【図27 住まいへの希望】

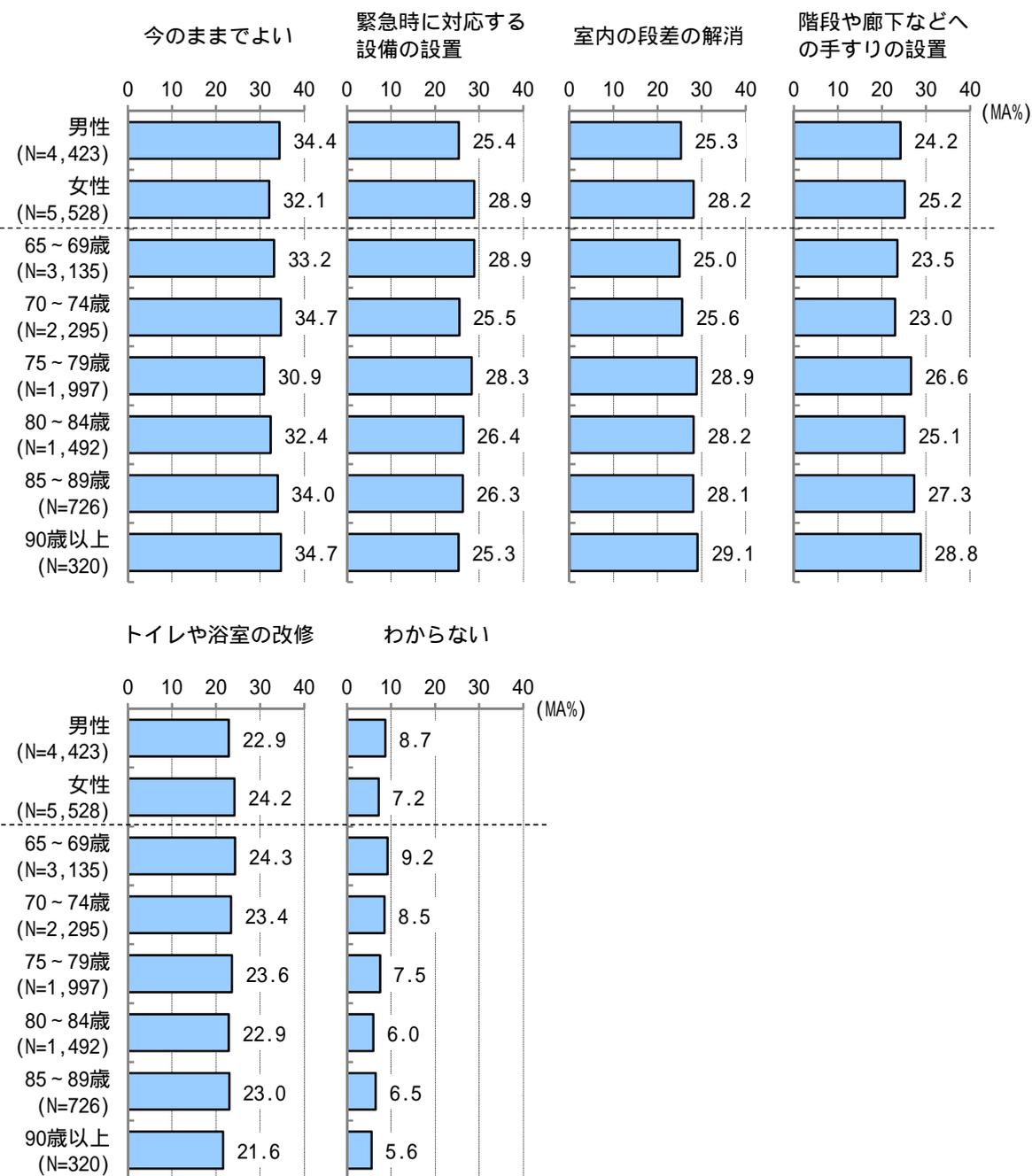


住まいの希望については、「今のままでよい」が32.9%で最も多く、次いで「緊急時に対応する設備の設置」(27.2%)、「室内の段差の解消」(26.7%)となっている。(図27)

性別で見ると、男女とも同様の傾向であり、大きな差はみられない。

年齢別で見ると、「階段や廊下などへの手すりの設置」の回答割合は高齢になるほど高くなっている。(図27-a)

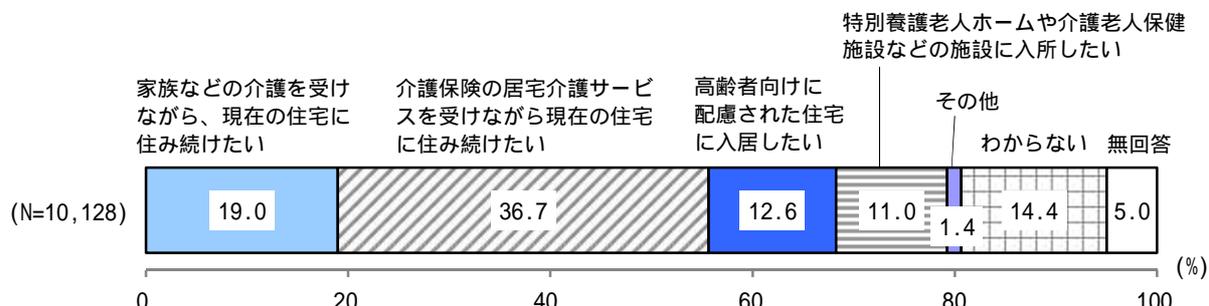
【図27-a 住まいへの希望(性別・年齢別)】



問28 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方

あなたは、介護や支援が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(はひとつ)

【図28 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方】

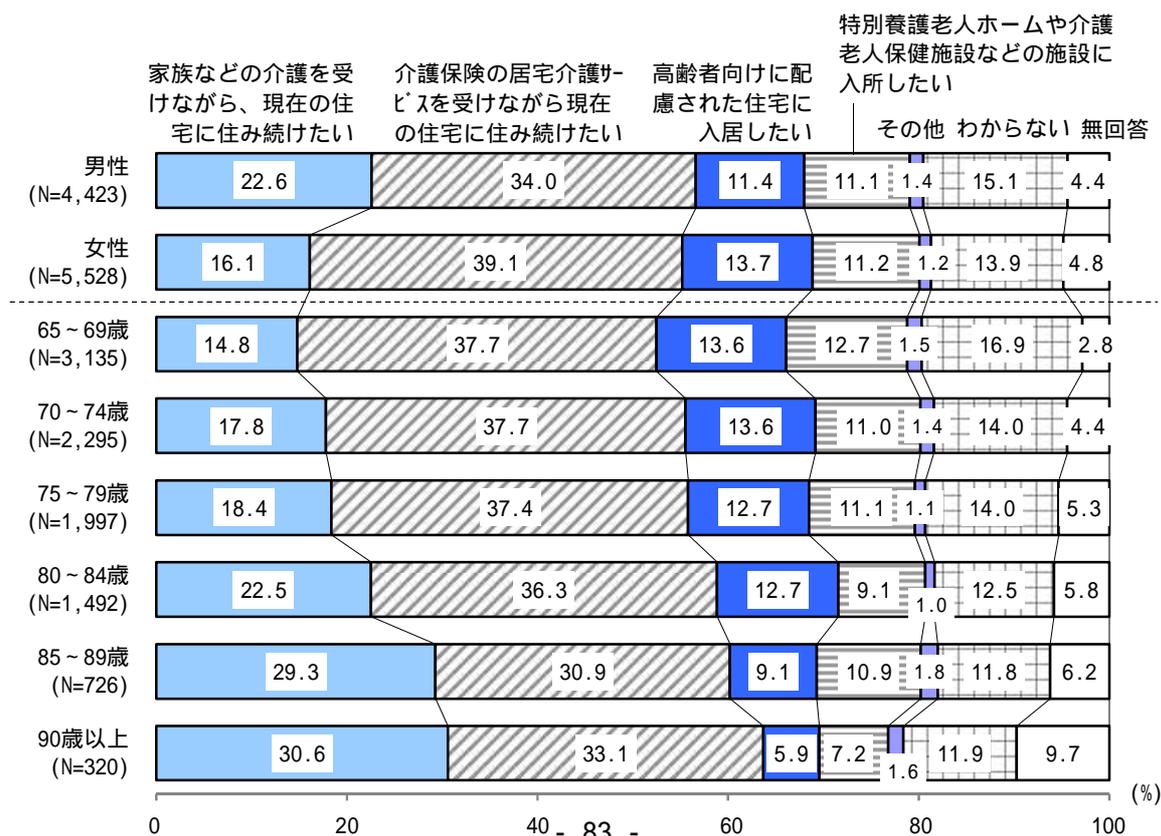


介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方については、「介護保険の居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」が36.7%で最も多く、次いで「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」とあわせた「現在の住宅に住み続けたい」の割合は半数を超えている。(図28)

性別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は男性の方が高く、「介護保険の居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」は女性の方が高くなっている。

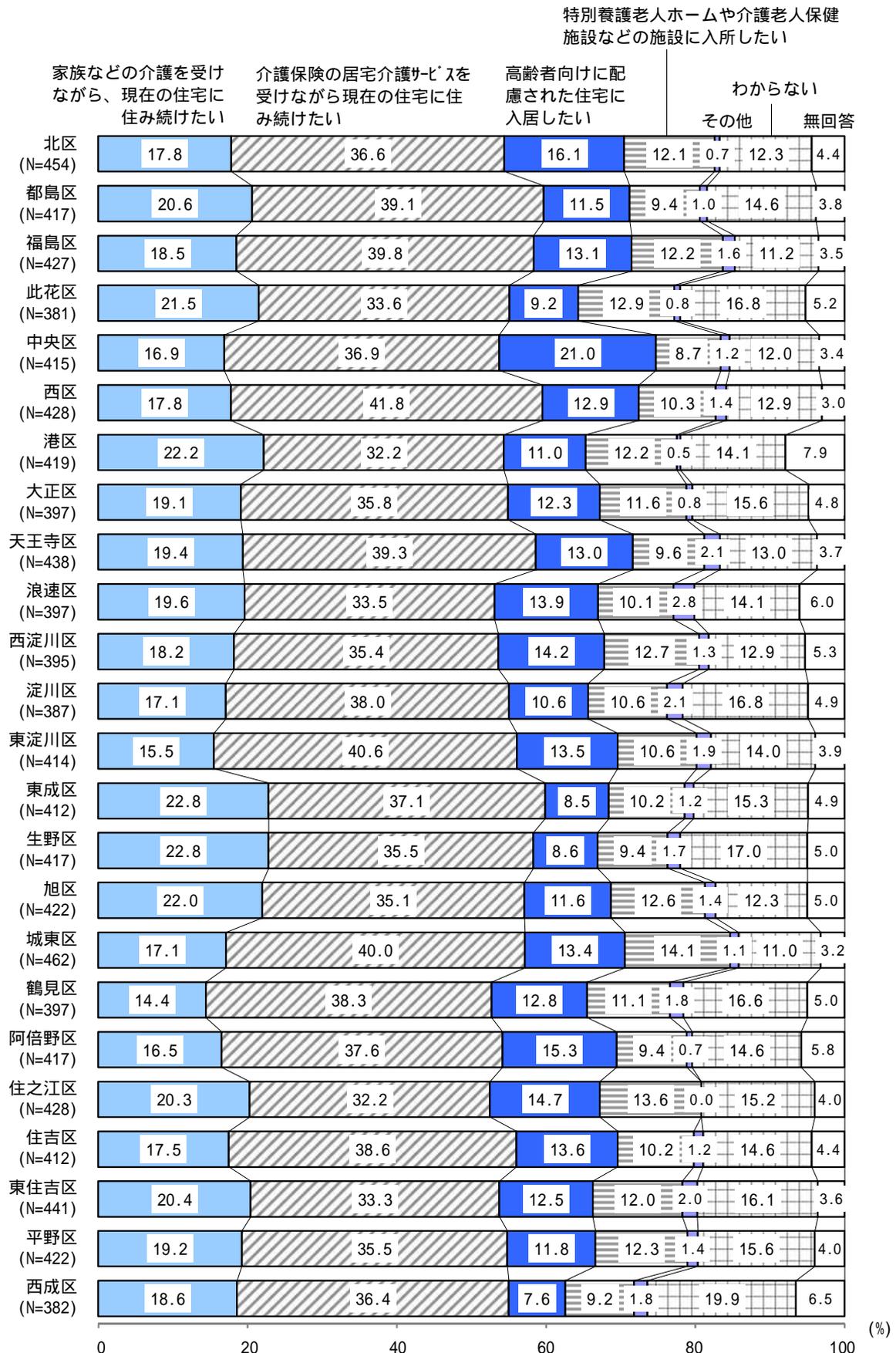
年齢別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は高齢になるほど高いが、「介護保険の居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」と「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」は高齢になるほど低くなっている。(図28-a)

【図28-a 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方(性別・年齢別)】



居住区別でみると、「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」の回答割合は中央区が21.0%で最も高く、次いで北区が16.1%で続いている。(図28-b)

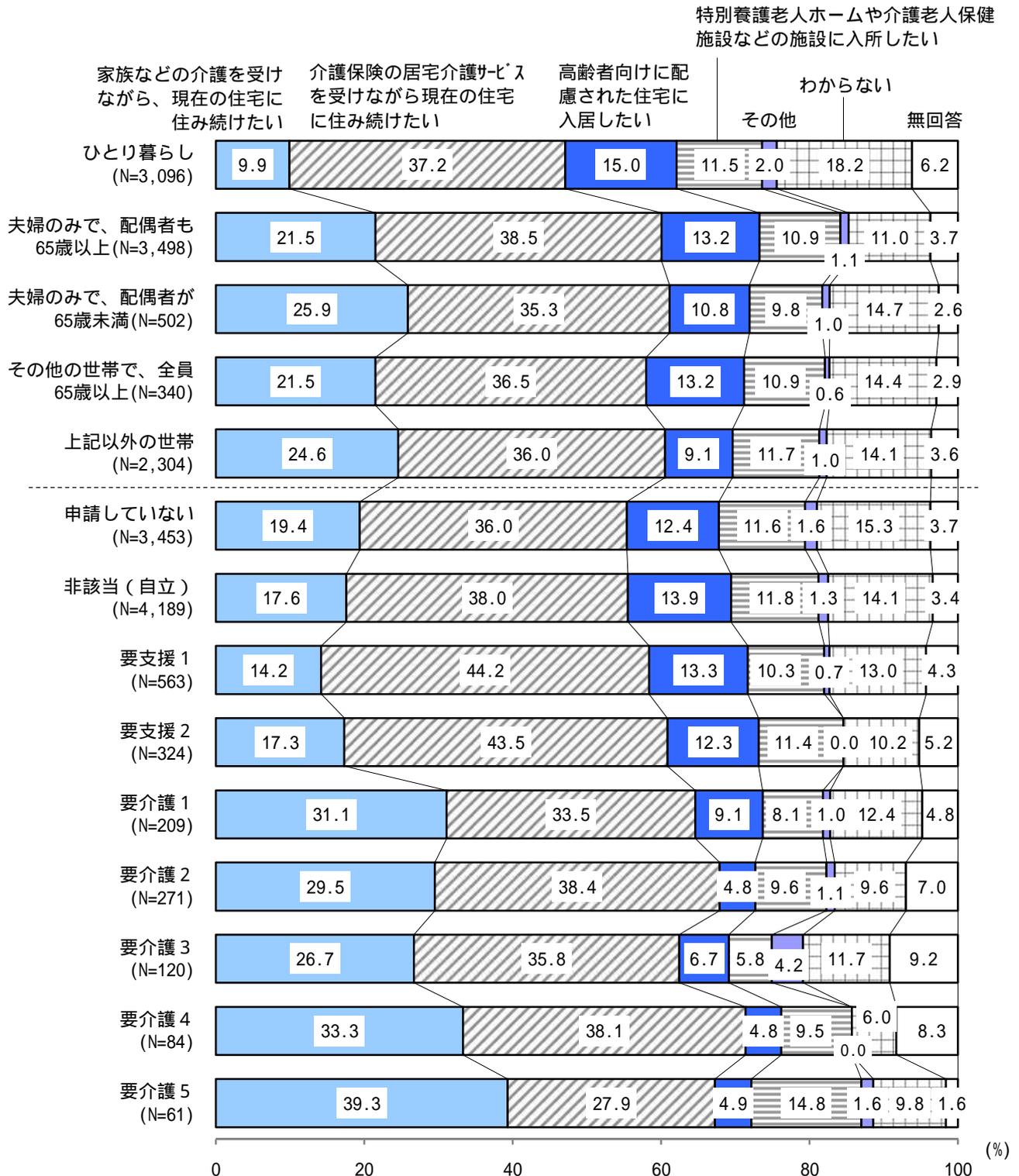
【図28-b 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方(居住区別)】



世帯状況別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”が25.9%で最も高く、「高齢者向けに配慮された住宅に入居したい」では“ひとり暮らし”が15.0%で最も高くなっている。

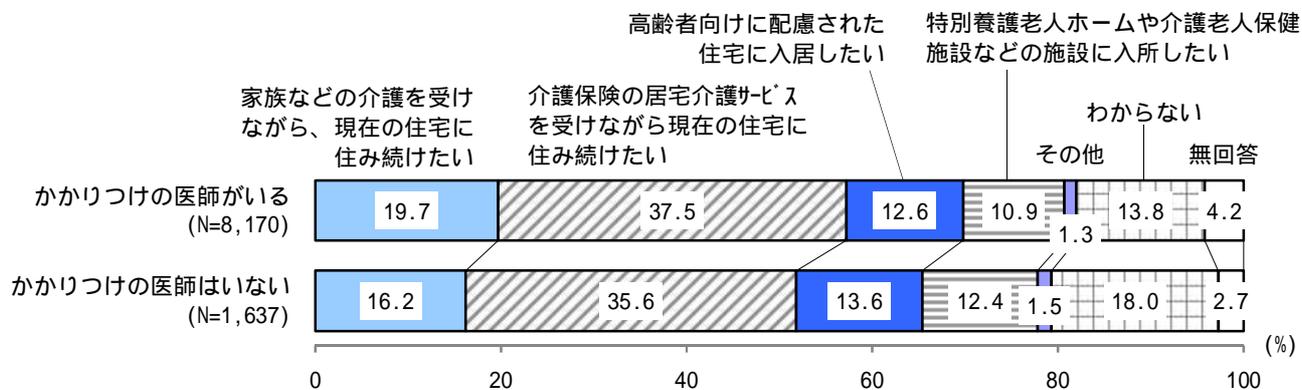
介護度別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合は重度になるほど高くなっている。(図28-c)

【図28-c 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方(世帯状況別・介護度別)】



かかりつけの医師の有無別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」、「介護保険の居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」とも“かかりつけの医師がいる”の方が割合が高くなっている。(図28-d)

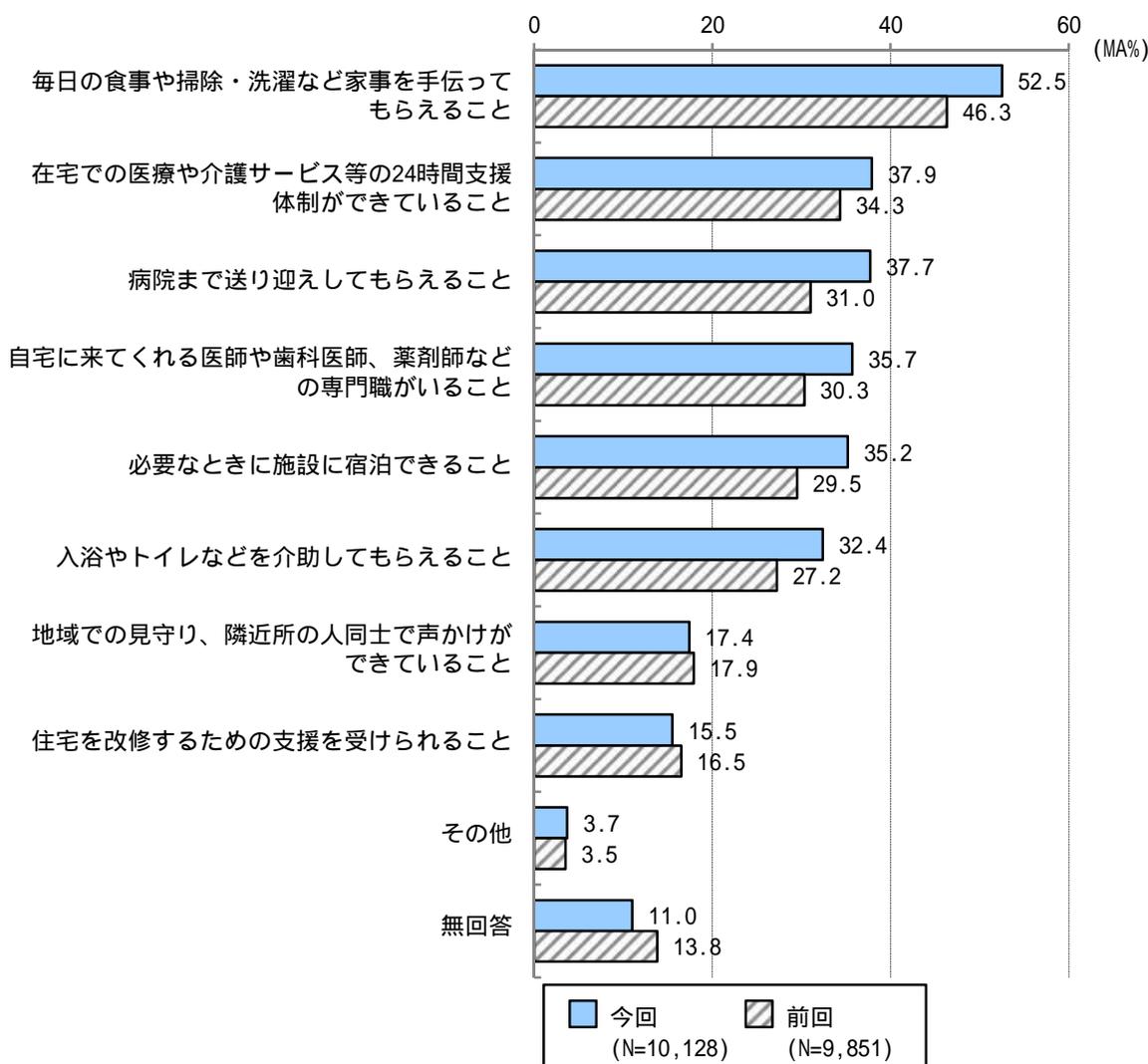
【図28-d 介護や支援が必要になった場合に希望する暮らし方(かかりつけの医師の有無別)】



問29 在宅生活継続のために必要な支援

あなたは、どのような支援が身近にあれば、自宅での生活を続けていけるとお思いますか。(はいいくつでも)

【図29 在宅生活継続のために必要な支援】



在宅生活継続のために必要な支援については、「毎日の食事や掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が52.5%で最も多く、次いで「在宅での医療や介護サービス等の24時間支援体制ができていること」(37.9%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(37.7%)、「自宅に来てくれる医師や歯科医師、看護師などの専門職がいること」(35.7%)となっており、医療に関連する支援が上位となっている。

前回調査との比較では、概ね前回と同様の傾向となっており、「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていること」と「住宅を改修するための支援を受けられること」以外の項目では今回の方が高い割合となっている。(図29)

性別でみると、「毎日の食事や掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」の回答割合は男性の方が高いが、それ以外の項目は女性の方が高くなっている。

年齢別でみると、「必要なときに施設に宿泊できること」と「住宅を改修するための支援を受けられること」では高齢になるほど低くなっている。(図29-a)

【図29-a 在宅生活継続のために必要な支援（性別・年齢別）】

